



第 38号

2023年12月

発行・編集
甲賀市企業人権啓発推進協議会
事務局
甲賀市産業経済部商工労政課内
TEL 0748-69-2188
<http://www.ac-koka.jp/koka-kijinkyu/>

2023 年度経営者トップ研修会

2023年7月7日(金)開催

令和5年7月7日(金)経営者トップ研修会が甲西文化ホールで開催されました。

名古屋大学大学院情報学研究科・唐沢穰さんを講師に『分け隔てする心のしくみ～偏見から分断へ～』と題して講演いただきました。大学では社会心理学を通して認知の側面について研究し、「人間にはなぜ偏見があるのか」を研究テーマとされているとのことでした。

偏見とは、例えば国や性別等で“〇〇だから××だ”と判断してしてしまうことを指します。知識や信念といったものから判断してしまうこともありますし、感情や評価といった先入観を通して判断してしまうこともあります。人間には全てを詳細に情報処理はできず、なるべく労力がかからないように情報を処理する＝思い込みが発生する、というメカニズムがあるそうです。そして、目立つ事がらや思い起こしやすい事がらを、実際以上によく起こっているように錯覚してしまいます。例えば、少数事例は「頻繁に起こっている」と判断され



やすいのです。

このような認知の傾向は、誰もが陥りやすいものであり、その人の人間性の問題で起こるものではありません。情報社会としての日常は情報で溢れています。メディアの中で語られる情報が知らず知らずに自分の内にインプットされており、自動的に自分も同じように“〇〇は××だ”と考えてしまうこともあるそうです。

大切なことは、自分が一部の情報だけを頼りに物事を判断していないだろうか、思い込みをしているかもしれない、と思うだけで、偏見を抑えられるということです。「その人の立場に立って考える」という行動が、最も偏見を抑えられたという実験結果もあるそうです。

このことは職場のみならず、家庭や普段の人間関係の中においても同様のことが言えると思います。誰だって、偏見の目を向けられて嬉しい訳がありません。皆が心地よく過ごしていけるよう、1人ひとりが気を付け合える社会にしていきたいと感じました。

社会福祉法人 甲賀学園 石田 一樹・記



講師唐沢さん 熱心に聴講の参加者

従業員対象フィールドワーク研修

2023年10月12日(木)開催

秋晴れに恵まれた10月12日の午後、甲賀市企業人権啓発推進協議会会員企業対象のフィールドワーク研修が開催されました。コロナ禍により開催が見送られており4年ぶりの開催となりました。今回の訪問先は東近江市の滋賀県平和祈念館です。

午後2時前に到着し、まず2階のホールで平和祈念館の上田様より約1時間の講習がありました。DVDの視聴のなかでは戦争の実体験、とりわけ主人や子供を戦地におくりだし残された家族の状況を知ることができました。意外だったのは、戦争に対する憎しみや、悲しみが語られるのでは無く、当時はそういう状況が当たり前で、特段、不満もなく、お国の為に頑張ろうという風潮であったということです。まさに、当時のプロパガンダや教育がそうさせていたという事に改めて戦争の怖さを覚えました。また講習の合間には、召集令状(赤紙、実際はピンク色)の実物見本や、鉄のヘルメット、国民服、信楽焼きの手りゅう弾などを手にとる事ができ、戦争が終わって78年という月日がそう遠い昔ではない事に気づかされました。

講習の後は、1階において様々な展示物を見てまわ



講義を熱心に聴講する参加者

りました。終戦直前では滋賀にも多くの空襲があった事、そして広島、長崎に落とされた原子爆弾の模擬爆弾が津江市に落とされたことなど、身近に住んでいながら初めて知った事がたくさんありました。

今回、上田様の講習は、“今の子供たちは戦争というものは日常会話に出てこない。何故なら親も祖父母も戦後生まれで戦争を知らないから”という話から始まりました。私ももちろん戦後生まれで先の戦争の事はテレビ番組や資料からでしか知りません。我々にとっては過去のものかもしれませんが、周りを見渡せば悲惨な戦争があちこちで起こっている現実があります。やはり悲惨な戦争は起こしてはいけなく、起こさせてもいけない。一人一人がしっかりと認識する必要があると強く感じました。

最後に今回の研修で教わった石垣りんさんの詩の一部をご紹介します。 “戦争の記憶が遠ざかる時、戦争がまた私たちに近づく”



展示物に見入る参加者

セキスイボード(株) 山本英樹 (記)

令和5(2023)年度

人権標語募集

12月4日(月)～12月10日(日)は **人権週間** です。

企人協では、人権週間の取組みとして『人権標語』の募集をしています。詳細については各企業・事業所に募集要項を送付していますので「啓発担当者」にご確認ください。

最優秀賞1点(副賞:商品券1万円)優秀賞11点(副賞:商品券5千円)参加賞(商品券500円)を贈呈いたします。

皆様のご応募をお待ちしています。

2023年度 企人協人権フォーラム

2023年9月14日(木)開催

9月14日(木)に、あいこうか市民ホールで2023年度 企人協人権フォーラムが甲賀市すこやか支援課の協力を得て開催されました。

今年のテーマは自殺防止強調月間にちなみ「ゲートキーパー養成講座～身近な悩んでいる人のサインに気づくために～」と題して、滋賀医科大学付属病院 リエゾン精神看護専門看護師 光岡 由紀子さんにご講演いただきました。

はじめに、日本の自殺者の現状について説明がありました。先進国の中で、自殺数が1位で、2020年で約21000人の方がお亡くなりになられています。2006年に自殺対策基本法が成立し、いろいろな対策がとられ、2019年まで10年連続減少していたが、コロナ禍になり、また増加に転じている状況です。

自殺にいたるには、いろいろな段階があり、その段階の軽い状態のときに、気づき対策することが大切であるということでした。

ストレスの反応として、頭痛、腰痛、不眠といった身体反応や、イライラする、涙もろくなる、また行動として食事量が増減したり、遅刻が増えたりと



聴くことの大切さを熱弁される光岡さん

いった反応がみられます。

そういう反応が、周りの人に出ているとき、何か大きなストレスがかかっているかもしれないと想像して、声かけをし、話を聴くことがとっても大事です。

と、聴くことの重要性について、語られていました。聴くときは、自分の意見を述べるのではなく、まず相手の話をじっくり聴いてあげること、そのことが心のエネルギーを充足させ、孤立から解放され、満足を得ることができるということです。

職場においても一人一人が、身近な人にストレス反応ではないかという気づきを察知して、声かけをし、心の重みを軽くしてあげられるようにすることが、いきいきと生活する中で、とても大切なことを学びました。

なお、当日の参加者は事務局含め80名でした。

(社福) あいの土山福祉会
山田 裕子・記



熱心に聴講の参加者

第15回甲賀市人権教育研究大会に参画して

2023年9月16日(土)開催

令和5年（2023年）9月16日（土）あいこうか市民ホールにて開催された「じんけんフェスタKOKA2023」に参画させていただきました。

今回のフェスタは第15回人権教育大会との同時開催で『誰もが自分らしく生きられる社会をめざして ～知って、考えて、つながって～』をテーマに開催されました。実践報告発表では水口中学校の奥美智子教諭から学校文化の『あたりまえ』を少しずつ見直し制服の選択制や現代に即したジェンダー平等や性の多様性について理解が進んできている現状についてお話いただきました。また、企人協会員企業からの実践報告ではTOTO(株)滋賀工場の枝國聡司工場長から女性活躍支援や仕事と家庭



企人協会員企業TOTO（枝國氏）発表

働きすぎ、過労死なども社会問題として取り上げられている。男性の生きづらさの原因の一つには、子どもの頃から競争の中で男らしさを示すよう教えられ、弱音を吐けない現実がある。これからの時代、命を削ってまで働くのではなく、立ち止って我が身を振り返る時間をつくり自分を大切にするとともに定年後をイメージし仕事以外での自分の居場所を見つけていく必要がある」と強調されました。

最近『男も女も、仕事も家庭も』へと変わりつつあり、男性の家事・育児への参画も進みつつありますが、個々の無意識の偏見を捨て自分と異なる価値観を持つ個人・集団と出会った時に純粋な敬意や開放性を持ち合わせ、いかに自分が変わるかを考えることの重要性を強く感じました。大会当日は、やまなみ工房さんの作品展示をはじめ多国籍料理キッチンカーの出店やバルーンアート、人権クイズ等が開催され楽しく学べる1日となりました。

近江鉄道 土山サービスエリア
田中健二（記）



熱弁の大妻女子大学田中准教授